

分野（３）

ぜん息発症予防・健康回復のための知識の体系化に関する調査研究

②成人を対象とした気管支喘息患者に対する効果的な保健指導の実践に関する調査研究

研 究 課 題 名： 成人を対象とした気管支喘息患者に対する効果的な保健指導（患者教育）
の実践に関する調査研究

調査研究代表者氏名： 大 田 健

評価コメント

○FeNOとACTとの関係、TxB2とLTB4の関係など新規の知見があり研究の進展が見える。
○本年度はすでに作成されている、喘息患者用のテキストを用い保健指導を行い、指導効果をFeNOという新たな指標を取り入れて評価した。対象患者の病型、年齢階層、重症度等による層別解析により、効率的な保健指導喘息コントロールテスト（ACT）でコントロール良好と判定された症例のうち、約60%の症例で閉塞性障害ないし気道の炎症が認められたのでACTのみでは限界があり、FeNOなどの炎症マーカーも必要であることからFeNO値の変換式も求められ、異なるFeNO測定機器を用いる施設でも応用可能となった。喘息の診断やコントロールの目安となるマーカーとして呼気凝縮液中の脂質メジエーターの測定も可能にした。確かにコントロールスコアは喘息の病態のうちでも気流制限を捉えており、特に長期予後に関連する気道炎症の病態とは必ずしも相関しない時期があるのは当然のことであり、喘息の治療にはこの両者からのアプローチが必要であることを明らかにしたことは意義深い。この研究はかなり完成に近づいている。
○患者の状況に応じた成人の効果的な保健指導の仕組みをほぼ確立したと思われる。
○呼気凝縮液中のbiomarkerの中で何が最も優れた気道炎症のmarkerとなり得るかを明らかにしてもらいたい。
○前期までに開発した患者教育用のテキストの有効性を評価するのに、呼吸機能の他に呼気NO、呼気凝縮液中のメディエータを指標として使用しているのは評価できる。異なる呼気NO計での測定値の変換係数を求めるなどの基礎データは充実させているが、同一メーカーでのロット間の測定値の精度、使用回数等の経年変化、室内、屋外でのNOバックグラウンド値の影響の検討など、新しい測定法の場合の基礎データの充実に努めて欲しい。
○喘息患者に対する効果的な保健指導を如何にして広く普及させるかが重要である。対策を考えてもらいたい。
○呼気凝縮液を用いた気道炎症のプロファイルの検討では、もう少し症例数を増やして統計的処理をすることが望ましい。統計処理をしてあるから、良いのかもしれないが、nの数が少ないと、2～3の例外的数値に平均値が歪められる可能性が大きい。
○胃食道逆流現象は喘息の病状に大きな影響をもたらすことが報告されてきた。しかし、わが国でこれまで報告は少ないので、本研究班がこの問題に取り組んだことは評価できる。GERDの正確な診断と、その影響について、さらに詳しい解析が望まれる。
○上部消化管内視鏡検査のみでは発見できないような胃食道逆流現象の診断はかなり難しいのではなかろうか。どのような診断基準を用いたのか不明であるが、正確な診断をつけないと、閉塞性肺疾患との関連を見ようとしても大きな誤差を生じることになる。
○胃食道逆流現象があるから喘息のコントロールが不良なのか、あるいは喘息のコントロールが不良だから胃食道逆流現象を誘発しやすいのか、その辺りの検討もすることが望ましい。